

抜き取って  
お読みください



Atsugi City Board of Education  
厚木市  
教育委員会だより

# Edu Navi

エデュ ナビ

Education is a Navigation  
for the Future



集おう 学ぼう つながろう

## 地域の学校公民館

青空に「せんみ風」を舞い上げる風揚げ大会、にぎやかな笑い声が絶えない「親子ふれあい教室」、朝日が差し込むお堂での座禅体験…。公民館は、各地区の〇社会教育活動の拠点として、地域の特色・人材を生かした催しや講座を開催しています。その数、全15館と1分館で年間500以上。全てに共通した狙いがあります。

それは、より良い地域となる手助けをすること。企画に当たっては、安心・安全な暮らし、青少年の健全育成、高齢者の生きがいづくり、住民同士のつながりなど、地域課題の解決に向けたアプローチをしています。

元社会教育委員で、森の里公民館の館長・青木信二さん(64)は、「公民館がない市町村も多い中、厚木市の公民館は、館数や職員数、講座数、活動内容がいずれも充実している。さまざまな年代の住民が集い、自ら学ぶべきことを見つけ、互いに学び合っている」と誇らしげに話します。

地域の未来のために学ぶ、地域の学校公民館。地域をより良くするために集い、学び、つながる皆さんを応援します。

☎ 社会教育課 ☎ 25-2513

### 社会教育

地域や家庭など、学校以外で行われる教育活動。公民館や図書館、博物館などを社会教育施設という

	社会教育	学校教育
学ぶこと	地域の課題解決に必要なこと、地域住民が学びたいこと	学習指導要領で定められていること、学校が決める教育課程
学ぶ人	地域住民	児童・生徒・学生
教える人	地域住民や専門の講師	教員



子どもたち一人一人に目を向け指導する廣瀬先生



廣瀬先生は授業での実践を見据えリズムダンスの研修に参加



ジグソー法の授業で生徒の質問に答える長町先生

2年生を担任している廣瀬先生は教員2年目。寺子屋では、学級運営のポイントを学ぶ講座やリズムダンスなどを受講しています。「寺子屋は、内容がとても多彩で、学校では学べないことを勉強できるのが魅力。教員としての興味の幅も広がら

### Case 1 指導の幅を広げる

毛利台小学校 廣瀬夕希先生

「先生のための寺子屋講座」は、教員としての幅広い知識の習得、指導力の向上、新しい教育課題への理解などを目的とする研修事業です。2006年の開始以来、昨年度までに119講座を開催し、受講者は延べ4650人を超えています。特徴は、授業のない土曜日に開催され、自由参加型であること。先生たちは、子どもたちが主体的に学ぶ授業の進め方や、人間関係づくり、いじめへの対応、環境学習、天体現象、リズムダンス、合唱など、幅広い全10講座から希望する研修を受けます。

### Case 2 新しい指導法を学ぶ

南毛利中学校 長町まゆみ先生

「子どもたちの学力を高めたり、生きる力を育んだりするには、子どもとの信頼関係が大切。研修を通していろいろなことを学んで力を付け、信頼に応えていきたい」と意気込む廣瀬先生。指導の幅をさらに広げて、子どもたちと向き合っていきます。

## 他にも盛りだくさん 先生のための研修

寺子屋講座以外にも、市立小・中学校の先生を対象とした多彩な研修を実施しています。校長への学校経営研修や児童・生徒指導研修、初任者研修、教科指導研修、ステップアップサイエンス講座などを開催し、先生の資質、指導力を高めています。



タブレットスクリーンで細胞分裂を観察 必修化されるプログラミング学習を学ぶ

初任者研修では、教員としての心構えや指導の基本などについて学んでいます。同期の先生たちと交流することで、他校の様子を知ることができ、喜びや困り事を共有したりと、人間関係を広げる場にもなっています。子どもたちの笑顔をもっと増やしていきたいよう、2学期も頑張っていきたいと思います。

## 己を高める努力を

教育委員会点検評価委員会委員長・元中学校長 片山 秀彦さん(60)

先生が資質や能力を高めるために、さまざまな研修を受けることは必要不可欠です。各教科の授業づくりから、児童・生徒の心を捉える指導、コミュニケーション能力や幅広い知識を身に付ける研修まで、偏りなく受講することが大切です。特に、道徳の教科化やプログラミング教育、情報通信技術の活用など、今日的な教育テーマに対してはアンテナを高くしてもらいたいと思います。

寺子屋講座への参加者は近年増加傾向にあり、先生の意識の高まりやニーズに合わせた研修設定が実を結んでいると感じます。今後も研修の機会や内容をさらに充実させてほしいと思います。

## イチオシ政策

**PICK UP 1 給食に地場農産物を導入**

厚木市農業協同組合と連携して、地元で採れた野菜などを学校給食に使用しています。子どもたちは、ニンジン、玉ネギ、長ネギ、大根、サトイモ、津久井在来大豆、米(2月限定)など、季節ごとに旬の地場産品を味わっています。農家の方を学校に招いたり子どもたちが畑を訪れたりして、農業や栽培の苦労などについて学習する機会を設け、食べ物へのありがたさや大切さを学んでいます。

**PICK UP 2 保護者の経済的負担を軽減**

児童・生徒の就学に要する保護者の経済的負担を軽減するため、図工、家庭科(小学校)、音楽、美術、技術・家庭科(中学校)で使う教材や実習材料、学級活動やクラブ活動、部活動で使う消耗品などの費用の一部を公費で負担しています。2017年度では、掛かった費用のうち、小学校で13.2%、中学校で20.4%を負担。小学校の児童一人当たり2344円、中学校の生徒一人当たり3037円を補助しています。

**PICK UP 3 日体大とスポーツ振興で連携**

未来のトップアスリートの育成やスポーツの普及を目指し、2015年に学校法人日本体育大学と「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結しました。オリンピックやパラリンピックの日本代表選手を招いた講演会や、小学生が大学に泊まり込みさまざまなスポーツを体験する「スポーツキャンプ」、体操のお兄さんによる親子運動遊びなどを開催。今後も大学の施設や人材を生かした特色ある事業を展開していきます。



# 学び続ける先生たち

「教育は人なり」といわれるように、学校の先生は、子どもたちの健全な成長に欠かせない存在です。一人一人に目を向けるきめ細かな指導、授業の準備、教材研究、授業改善の取り組みに日々奮闘する先生たち。自らの指導力を高めようと、子どもたちに負けずに学んでいます。

教育研究所 ☎22512414



①リズムダンスの楽しさを体感②真剣な表情で研修を受ける先生たち③教室でできるロケット工作と発射実験を体験④参加者同士で活発に意見を交換⑤環境学習の研修では簡易的なソーラークッカー(太陽熱を利用する調理器)を制作⑥15年ぶりに地球に大接近する火星について学ぶ⑦チームに分かれてダンスの創作に挑戦

## みらいの種

新任の先生を対象とする研修であいさつ

新任の先生は子どもたちに勉強を教えるだけでなく、十分に実践していくには、子どもたち以上に自分自身が学び続けなくてはなりません。これは新任の先生もベテランの先生も同じです。ためまぬ自己研さんを重ねて、授業づくりや学級づくりにおける指導力を高め、人間性豊かな先生になってほしいと思います。

社会人としての自覚については、特に新任の先生に毎年伝えています。社会の常識や動きを理解し、誰にでも円滑にコミュニケーションを取れるようになることが大切です。世の中の規範に照らして、自分の言動を客観的に確認することは、自らを省みる謙虚さにつながると思います。

先生の資質向上に近道はありません。教育委員会は、寺子屋講座をはじめとした研修を「履充させ、真摯に子どもたちと向き合う先生を育てて参ります。」

教育長「ラム」日曾田 高治



# 伝統芸能を語り継ぐ

ぎだゆうがた 義太夫語りの継承者 朝倉 輝美さん (63)

太夫として、活動して14年になります。太夫は、人形浄瑠璃などに登場する人物の心情やその場の情景を描写する物語の語り手です。人情や忠義、親子愛、悲恋などを描く演目の多くは、江戸時代に庶民の娯楽として作られ、語り継がれてきました。太夫は、そうした物語をまとめた「床本」といわれる台本を基に、人物によって語り方や声を使い分け、太棹三味線に合わせて語ります。私は、文化会館や公民館などで開かれる公演に年8回ほど出ています。

元々、三味線の音色が好きで、学生時代は演劇をやっていたこともあり、義太夫節には以前から興味を抱いていました。2004年に郷土芸能学校で学べると知ると、早々に申し込んだことを覚えています。講座の初めに、竹本土佐子師匠のお手本を目の前で聴いた時、この道を進んでいこうと心に決めました。登場人物の心情を見事に表現した語りは心に深く響き、大きな感銘を受けました。今も月に3回稽古を重ね、六つ目の演目に挑戦中です。1年で1演目を仕上げることを目標に取り組んでいます。語る上で大切な間や息遣い、心情の伝え方など、芸の道に終わりはないと日々感じています。頭では分かっている、何度も稽古を積ま

2009年から市内の小学校や公民館で義太夫語りを披露

## 郷土芸能学校

郷土芸能の普及と継承を目的に2004年から実施し、延べ282人が学んでいます。これまでに義太夫語り・三味線、相模人形芝居、伊勢十二座太神楽獅子舞、相模里神楽の後継者育成に取り組んできました。



現在は2人が竹本師匠に義太夫語りを学ぶ

文化財保護課 ☎225-2509

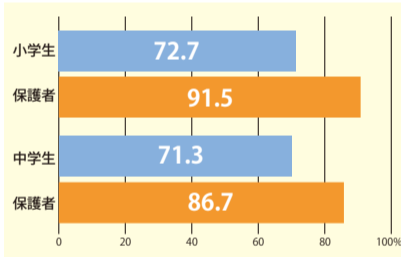
ないとうまく語れないものですね。忘れたくない舞台は、やはり初出演の時のものです。音が外れてしまったら、うまく声が出せなかったりと、不甲斐ない結果となってしまいました。けれど、反省と練習を繰り返して挑んだ公演で大きな拍手を頂けたときや、物語の魅力を伝えられたと思えたときは大きなやりがいを感じますし、太夫を続ける原動力になります。昔は娯楽として広く親しまれていた義太夫節も、現在では貴重なものとなつていきます。広く知ってもらうために小学校や保育園でも義太夫節を語りますが、子どもたちは、難しい語り口を聞き取れなかったり、意味が分からなかったりするはず。それでも、登場人物の思いをすくい、語り掛けられれば、物語の魅力はきっと伝わると信じています。公演を見た子どもたちの中から、物語を語り継ぐ仲間が現れてくれるとうれしいです。



師匠の三味線に合わせて義太夫節を語る

## 親子のための info インフォ

親子のための 耳より! 家庭でルールを決めていると回答した割合



### 決めていますか? インターネットのルール

2017年度青少年のインターネット利用環境実態調査(内閣府)によると、インターネットを使っている小学生は約65%、中学生は85%に達しています。同時に、利用に関する家庭のルールについては、子どもと保護者の認識にギャップがあることが明らかになりました(右上グラフ参照)。

インターネットは便利な反面、依存してしまったり、有害サイトなどの悪影響を受けてしまったりと、危険な側面も

あります。まずは、使う時間や場所、フィルタリングなどの「ルールづくり」をしましょう。大切なことは、単に禁止したり、一方的に保護者の考えを子どもに伝えたりするだけでなく、子どもの考えもよく聞くことです。この時、子どもと保護者が互いに納得できるルールにすることがポイント。そして、子どもの成長に合わせて、内容を見直していくことも大切です。

### 数字で見るあつぎの教育

Q これって何の数字

73.7%

### A 市立小学校に通う児童のヘルメット着用率です。

(自転車使用者対象の2017年度3学期の調査)

2013年度の調査で39.4%だった着用率は、意識の高まりや学校などでの指導により、着実に向上しています。しかし、児童の17.6%は「サイズが合わないため着用しないことがある」と回答。成長に応じて買い替えていない実態があります。

警察庁の統計では、自転車死亡事故における損傷部位の63%が頭部とされます。一方で、サイズの合ったヘルメットを正しく着用することで、死亡率が約75%



も低減されるというデータがあります(交通事故総合分析センター)。ヘルメットで頭を守ることが命を守る有効な手段であることが分かりますね。

厚木市にはヘルメットの購入を助成する制度があり、一度助成を受けても年度が変わればまた利用できます。ぜひ活用してください。

厚木市 自転車ヘルメット助成 [検索](#)

## 鮎まつりに教育委員会PRブースを出展

## Edu NEWS Navi

## 教育研究発表会・教育講演会を開催



来場者がタブレット端末でドリル学習を体験

8月4・5日の2日間、あつぎ鮎まつりで設置された市のシティプロモーションブースに教育委員会が出展しました。ブースでは、チラシを配布するなど、学校教育充実への取り組みをPRしました。来場者は、昨年度市立小・中学校に導入したタブレットの体験コーナーで算数のドリルに挑戦したり、フォトスポットで写真を撮影したりして楽しんでいました。

教育委員会は8月8日、最新の教育動向や教育実践事例への理解を深める「教育研究発表会・教育講演会」を文化会館で開催しました。参加した小・中学校の教職員やPTAなど約340人は、専門家による講演と、教員による指導力向上への取り組み事例や教科化される道徳の授業づくりに関する調査研究の発表を熱心に聞いていました。



調査研究の成果を発表する教員

学校、家庭、子どもの発達... 独りで悩まないで! **子どもの相談は ☎ 221-8080** (青少年教育相談センター) 平日9時~17時(火曜は20時)。それ以外の時間と土・日曜、祝日は留守番電話をご利用ください。ネットいじめ・ヤングテレホン ☎ 223-6693でも承ります。